

第 91 回つくば中央メーデー

応援メッセージ

(1) 新日本婦人の会つくば支部

新型コロナ・ウィルス感染の広がりにより、メーデーを中止することとなりとても残念です。しかし「命を守ることを最優先に」との思いは共通です。

私たちの社会を支えているのは働く人・労働者なのだとすることを、今改めて痛感する日々です。中でも医療や介護、保育や食品・スーパーなど、生活を支える仕事が多く女性たちによって担われています。非常勤や派遣など不安定雇用の多くが女性であり、失業、休業、収入減による困難も女性に対して一層重くのしかかり、家庭での子育ても困難さを増しています。女性や子ども、障がい者へのDVも懸念されます。不安な時、社会的困難な時こそジェンダー視点での施策と援助が必要です。

今まで賃金を抑制し、医療や福祉、介護、年金を削減し、消費税増税をして来た政治が、国民をより一層困難にしているのではないのでしょうか。

私たち新日本婦人の会つくば支部では、女性の人権、平和、暮らし、こどものしあわせなど、ジェンダー視点に立って、社会や政治に働きかけています。また、女性のつながり、共同、共感を大切に、知恵と力を出し合い、助けあっていきます。

この困難に負けずに、命と暮らしが守られるように共に力を合わせて行きましょう。



(2) 新しいつくばを創る市民の会

今年も、私たちは「働く者の団結で生活と権利を守り、平和と民主主義、中立の日本をめざそう」と団結がんばろうと集まっています。

新しいつくばを創る市民の会は、5月発行をめざしてつくば市民白書2020実行委員会を昨年立ち上げました。つくば市政と暮らしの現状・問題点・今後の課題などを市民の目線にとらえ、討議を行い、冊子にまとめて多くの市民に知らせることが目的です。55名の執筆者の協力によって、総合運動公園問題の検証、財政、教育、福祉、環境、ジェンダー、まちづくりと多岐にわたる内容になっています。つくば市民白書2020をぜひ大勢の皆様によんでいただきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

世界中が今、新型コロナウイルス感染拡大とたたかっています。暮らしと営業、子どもたちの教育が本当に心配です。医療崩壊も危惧されています。感染症病床は全国でわずか1800床、イタリアやスペインの半分です。背景に保健所を削減して公衆衛生を弱体化させ、入院できる病床を削減してきた公的医療費抑制策があります。

命と暮らしを守るためには、抜本的な施策、国や県や市の援助が必要です。

感染拡大で私たちに、世界が相互に依存しており、軍事第一主義は誤りであることを教えていると思います。核兵器廃絶、戦争法廃止、持続可能な世界を！

ご一緒に力を合わせていきましょう。第91回つくば市メーデー 万歳！

